

変容祭 聖体礼儀

【大連禱】

第1 アンティフォン

ソロ、救世主や、生神女の祈禱に因りて我等を救い給へ。

附唱、救世主よ、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。

第1 アンティフォン 附唱

救世主や 生神女の祈禱によつて、我等を救いたまえ

ソロ、(第一句、第六十五聖詠) 全地よ、神に歎びて呼び、其の名の光栄を歌ひ、光栄と讚美とを彼に帰せよ。

附唱、救世主よ、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。

ソロ、(第二句、第七十六聖詠) 爾の雷の聲は穹蒼おおぞらにあり、電いなずまは世界に閃き、地は動きて震へり。

附唱、救世主よ、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。

ソロ、(第三句、第103聖詠) 爾は光栄と威厳とを被れり、爾は光を袍ころもの如くに衣る。

附唱、救世主よ、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。

第2 アンティフォン

ソロ、山に於て変容せし神の子よ、我等爾に「ア ril l i ya」を歌ふ者を救ひ給へ。

附唱、山に於て変容せし神の子よ、我等爾に「ア ril l i ya」を歌ふ者を救ひ給へ。

第2 アンティフォン 附唱

やまに おいて、変容せし かみの子や

我等爾に ア ril l i ya を歌うものを 救い たまえ

ソロ、(第一句、第 47 聖詠) シオン山は美しき高處にして、全地の喜^{よろこび}悦なり、其北方に大王の城^{まち}邑あり。

附唱、山に於て変容せし神の子よ、我等爾に「ア ril l イヤ」を歌ふ者を救ひ給へ。

ソロ、(第二句、第 77 聖詠) 彼等を引きて其聖なる^{さかい}界、其右の手の獲し所の此の山に至れり。

附唱、山に於て変容せし神の子よ、我等爾に「ア ril l イヤ」を歌ふ者を救ひ給へ。

ソロ、(第三句) 其愛する所のシオン山をよろこべり、其聖所を建てしとこと天の如し。

附唱、山に於て変容せし神の子よ、我等爾に「ア ril l イヤ」を歌ふ者を救ひ給へ。

光栄、今も、神の独生の子ならびに言よ、(聖体礼儀の楽譜)云々

第三倡和詞、第七調。

トロパリと句

ハリストス神よ、爾は山に於て変容して、爾の門徒に其力に稱ひて爾の光栄を顕し給へり。願はくは生神女の祈禱に因りて、我等罪なる者にも爾の永在の光は輝かん。光を施す主よ、光栄は爾に帰す。

ハリストス かみよ なんじは 山において 変容して
なんじの 門徒に その ちからに かないて
なんじの 光栄を 顕したまえり
願はくは 生神女の祈禱によって 我等 罪なるものにも
なんじの 永在のひかりは かがやかん
光を施す主よ、光栄は なんじに 帰す

第一句、(第 124 聖詠)、主を頼む者はシオン山の如く動かずして永く存す。

讃詞 ハリストス神よ、・・・

第二句、諸山はイエルサリムを環り、主は其民を環りて今より世々に迄らん。

讃詞 ハリストス神よ、・・・

第三句、(第 14 聖詠)、主よ、孰か爾の住所に居るを得る、孰かか爾の聖山に在るを得る。

讃詞 ハリストス神よ、・・・

第四句、(第 23 聖詠)、孰か能く主の山に渉る、孰か能く其聖所に立つ。

讃詞 ハリストス神よ、・・・

<句の数は聖入の進行具合によって、適宜調整する>

聖入の句、第 42 聖詠、主よ、爾の光と爾の眞実とを遣し、其をして我を導きて、爾の聖堂山に至らしめ給へ。

讃詞、第七調。

ハリストス神よ、爾は山に於て変容して、爾の門徒に其力に稱ひて爾の光栄を顕し給へり。願はくは生神女の祈禱に因りて、我等罪なる者にも爾の永在の光は輝かん。光を施す主よ、光栄は爾に帰す。

ハリストス かみよ なんじは 山において 変容して
なんじの 門徒に その ちからに かないて
なんじの 光栄を 顕したまえり
願くは 生神女の祈禱によって 我等 罪なるものにも
なんじの 永在のひかりは かがやかん
光を施す主よ、光栄は なんじに 帰す

光栄は父と子と聖神に帰す今も何時も世々にアミン

小讃詞、第七調。

ハリストス神よ、爾が山に於て変容せし時、爾の門徒は容るるに稱ひて爾の光栄を見たり、此れ爾が十字架に釘せらるるを見て、苦の自由なるを悟り、爾が實に父の光なるを世界に傳へん為なり。(楽譜は次ページ)

ハリストス かみよ なんじは 山において 変容せしとき
なんじの 門徒は容るるに かないて なんじの 光栄を見たり
これなんじの 十字架に 釘せらるるを見て
苦しみの 自由なるを さとり なんじが じつに
父の 光栄なるを 世界に 伝えんためなり

聖三祝文

提綱、第四調。主よ、爾の工業は何ぞ多き、皆智慧を以て作り。 (主日4調と同じ)

句、我が靈よ、主を讃め揚げよ、主我が神よ、爾は至りて大なり。

使徒の誦読はペトル書 65 端。

「アリルイヤ」、第八調、天は爾に属し、地も爾に属す。句、喇叭の呼声を識る民は福なり。

福音經の誦読はマトフェイ 70 端。

「常に福にして」に代へて「イルモス」、「生神女よ、爾の産は不朽なり」本祭の末日に至るまで此くの如し。

わが た ま し い よ、 フ ァ オ ル 山 に
光 栄 を あ ら わ し し 主 を 讃 め あ げ よ
生 神 女 よ な ん じ の 産 は 不 朽 な り
か み は な ん じ の は ら よ り 出 で
地 上 に 肉 体 あ る も の と あ ら わ れ て
ゆ え に わ れ ら み な な ん じ を あ が め 讃 む

領聖詞、主よ、我等は爾が顔の光の中に行き、終日爾の名に因りて飲ばん。(聖詠 88:16-17)

「アリルイヤ」。三次。

ユニソンのときはアルト
主よ、われらは なんじが 顔 の ひかりの うちに行き
終じつ なんじの 名に 因りて よろこばん
ア リ ル ヤ ア リ ル ヤ ア リ ル ヤ